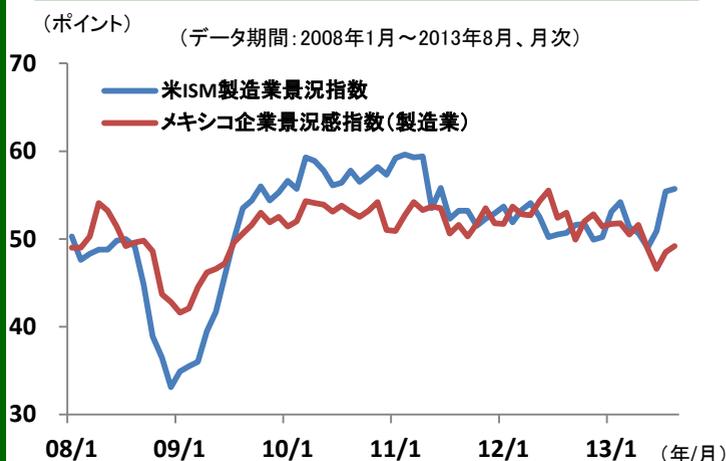




9月6日発表のメキシコの政策金利の変更について

- メキシコ中央銀行は、9月6日の金融政策決定会合において、政策金利である翌日物貸出レートを0.25%引き下げ3.75%としました。市場予想の大半は「据え置き」予想でした。次の金融政策決定会合は10月25日の予定です。
- メキシコ中央銀行は、今回の利下げの理由として以下の要因をあげています。
  - ・最近の世界経済はスローダウンの傾向にあり、特に、新興国は世界貿易の低迷と内需の停滞から、景気の下振れリスクが大きくなってきていること
  - ・メキシコ経済は、2013年第2四半期実質GDP(前年比、年率)が1.5%と鈍化してきていること
  - ・インフレ率については、歴史的低水準で落ち着いていること
  - ・国際金融市場の変動が拡大し、メキシコ・ペソが下落し、メキシコの長期金利が上昇してきていること
- そして、声明文では、これまでのメキシコ金融市場の変動は、インフレによるリスクプレミアムの増大やソプリリスクの拡大によるものではないことを述べています。また、メキシコのファンダメンタルズ(経済の基礎的条件)は良好で安定しており、今回の利下げが景気後退への予防的措置であることや政府の構造改革をサポートするものであること、及び現在のインフレ水準が長期的なインフレターゲットを満たすものであることについて言及しています。

【図表1: 米ISM製造業景況指数とメキシコ企業景況感指数(製造業)の推移】



【図表3: メキシコペソ円、米ドル/メキシコペソの為替レートの推移】



【図表2: メキシコ政策金利と国債利回り(5年)の推移】



【図表4: メキシコ株式(ボルサ指数(IPC®))の推移】



出所: 図表1~4は、ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成